



シビルサポートネットワークニュース

NPO法人シビルサポートネットワーク

2018年1月31日

2018年冬季号

本号の内容

□ 冬に語る

・創立14年目を迎えてのこれからのCSNの道

□ 事業報告

・クラウドソーシングとしての「シビルマッチ」利用提案

□ 活動報告

・第27回サロン。ソーシャルインパクト・ボンド概論

□ コラム

・CAFE0-35 (バンコク大会) 参加報告

・水を抜けば土は強固に!

□ トピックス

・市民社会を築く建設大賞2018募集始まる

□ CSNのうごき

□ 冬に語る □

年頭にあたって

創立14年目を迎えてのこれからのCSNの道

代表理事 辻田 清



辻田代表

早いものでCSNは2004年(平成16年)8月に創立され今年で14年目を迎えることとなります。

ここまで続けてこられたのも会員の皆様の支援があったること

と感謝しております。

設立時の発起人数は34名で平均年齢は50代後半でそれから14年が経過した現在会員は18名で平均年齢は70歳代前半となっています。

期中入会も加えても会員人数は設立時の半数に減少し年齢構成も大幅に高齢化してきています。

その後、社会情勢も大きく変化し当初予想した団塊世代の会員増加の期待はまぼろしと消え去ったと同時に構成メンバーの世代交代は今となっては非現実的な状況にあります。創立当時の年金支給年齢60歳は設立後間もなく65歳に引き上げられ、いずれ70歳になろうとしています。すなわち日本社会は急激な少子高齢化社会にあって一億総活躍社会なる号令のもとに死ぬまで現役で働かなければ生きていけない社会になってしまっているのです。

今振り返って見るとCSNの設立時に描いた60歳定年後の第2の人生をNPO活動に生かして行ける時代の到来はなかったのです。

NPO法人は正会員の人数が10名を割ると解散手続きをとることになっています。

現在18名の正会員の内2018年度以降継続が難しいと思われる人数は4人程度おり、おそらく新年度は14名となるでしょう。今後、CSNを継承してくれる次世代の人材もなく、構成メンバーが高齢化してきている現状でこれからどうすべきかを真剣に考えなければなりません。

せっかくここまで続けてきたNPO組織を構成メンバーが10名を割っていないのに解散することはないと思います。解散は構成メンバーが10名を割った時点でルールに従ってすればよいのでそれまでは何とでも活動を継続しCSNを存続させていきたいと願っています。

しかし、組織を継続するには活動経費を賄う資金が必要で、とても十数名の会員会費だけでは賄えるものではありません。ここ数年何とか凌いでこられたのは過去の繰り越し資金があったからで、この繰り越し資金もいよいよ底をついてきています。

そこで今後のCSNの活動は軸足を完全に加盟組織であるNPO法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)に移してCNCPをプラットフォームとして活動をしていくことが最善の道と考えています。

CSNとしての経費のかかる独自のイベントや活動(季刊誌発行、CSNサロン、役員懇談会、サポータ制度等は休止、諸会費はCNCPを除いてすべて退会、総会もメールでの会計報告に留める)などとすれば何とかCNCPでの活動に必要な経費だけは会員会費と僅かな繰越金で賄って行けます。

そもそもCNCPは3年前に土木学会の創立100周年事業でCSNのような弱小の建設系NPOを支援する中間支援組織として設立されたものでありCSNが今後CNCPをプラットフォームとして活動することに関しては全く理にかなったものと言えます。

すでにCSNではCNCP創立間もなくCSNで

企画していた「共創プラットフォーム事業化研究会」をCNCPをプラットフォームとして立ち上げてゼネコン4社と2年間新規事業の研究会活動を実施しました。

また、CSNはCNCPの創設時から加盟団体として参加し、私は事業化推進部門の常務理事としてシビル・マッチの開発やCNCPアワードの創設、シンクタンクチームの創設などすでに多くの実績を積み重ねてきました。

また、今後はCSNの会員の皆様方にはCSNの季刊誌に代わってCNCP通信を毎月配信CNCPにおけるNPO活動の情報を広くお知らせして参りたいと思います。

なお、今後のCSNの活動方針につきましては4月の総会においてご承認を頂きたく上程致します。

会員のみなまさにおかれましてはご理解を頂きまして引き続きご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

□ 事業報告 □

クラウドソーシングとしての「シビルマッチ」利用提案

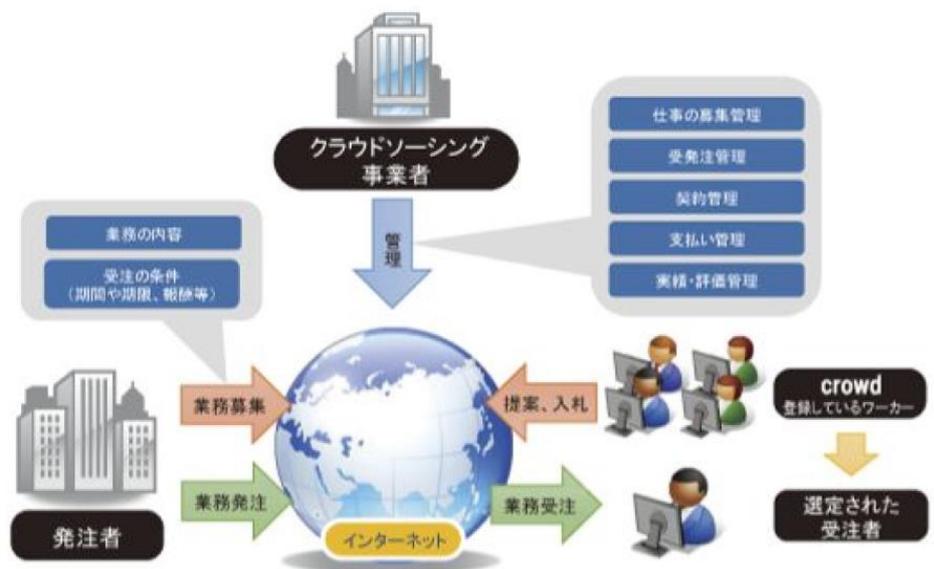
建設系NPOから、広く建設産業に関わる企業へ

1. クラウドソーシングとは

昨今利用者が増えつつある働き方の一つとして、クラウドソーシングと呼ばれる仕組みが普及しつつあります。

クラウドソーシングとは、不特定の人(クラウド=群衆)に業務を外部委託(アウトソーシング)するという意味の造語。

発注者がインターネット上のウェブサイトを受注者を公募し、仕事を発注することができる働き方の仕組みで、欧米等を中心に普及が進んでいます。



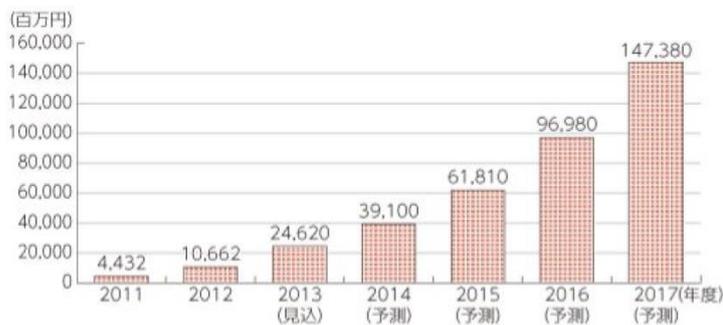
図一 クラウドソーシングのイメージ

(出典) 総務省「ICTの進化がもたらす社会へのインパクトに関する調査研究」(平成26年)

2. わが国のクラウドソーシング事業の動向

わが国におけるクラウドソーシングの利用は2009年頃から本格化したと言われており、矢野経済研究所の調査によると2012年時点でその市場規模は100億円を超えています。

国内の市場規模はその後右肩上がり成長を続け、2017年度には1,473.8億円規模に達する見込みです。また、クラウドソーシングの市場活性化に伴いサービス事業者の参画も続いており、既に数十社がサービスを提供しています。



図一2 国内のクラウドソーシングの市場規模

(出典) 矢野経済研究所「BPO市場・クラウドソーシング市場に関する調査結果2013」

3. クラウドソーシングの案件例

業務案件の種類としては、プロジェクト形式やコンペ形式、タスク形式等があります。

プロジェクト型は、一般的に比較的規模の大きい案件であり、時給制もしくは報酬制でスキルが求められるプログラム開発、アプリ開発、ホームページの構築等の案件が一般的です。

コンペ形式は、ロゴやバナーの作成、ネーミングの考案など一定のスキル等が求められます。

タスク形式は、PCでのデータ入力やアンケート回答など、小規模でそこまでのスキルは求められないため、受注者のハードルも低く、後者2つについては案件単位で固定給が支払われる報酬制が一般的です。

形式	特徴	案件例	1案件あたりの収入等
● プロジェクト形式 受発注者間で報酬などの条件を交渉、契約締結後に作業を開始。	中～大規模 報酬制または時給制 比較的長期 スキルが求められる	・プログラム開発 ・アプリ開発 ・ホームページ構築 ・記事執筆	数千円～数百万円超 一案件の所要時間は数日から数ヶ月程度
● コンペ形式 複数の受注者がデザイン案やアイデアを提案。採用提案にのみ報酬が支払われる。	小～大規模 報酬制 比較的中期 比較的スキルが求められる	・ロゴ作成 ・バナー作成 ・ネーミング ・キャラクター作成	数千円～数十万円超 一案件の所要時間は数分～数時間程度
● タスク形式 アンケートなどの簡単な作業を、多数の受注者に分散して依頼する。	小規模 報酬制 ごく短期 スキルが求められない	・データ入力 ・アンケート ・短文の記事作成	数十円～数百円 1案件あたりの所要時間は数分程度

図一3 一般的なクラウドソーシングの案件例

(出典) 株式会社クラウドワークス提供資料

4. シビル・マッチの利用提案

NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム (CNCP) は 2014 年土木学会創立 100 周年記念事業の一貫で建設系 NPO の中間支援組織として創設されました。

そして、昨年中間支援組織の機能として求められるマッチング機能を「シビル・マッチ」として開発を致しました。「シビル・マッチ」はそもそも建設系 NPO を対象にしたマッチングサイトとして開発されてきたものです。

クラウドソーシングはそもそもインターネットを利用したアウトソーシングとして利用されてきましたが、近年では単なるアウトソーシングの枠を超えた社外の技術やアイデア・ノウハウをタイムリーに積極的に活用して課題を解決する動きが活発化してきています。

本システムを単に建設系 NPO を対象としたマッチングサイト機能として利用するのではなく広く建設産業に関わる多くの企業の事業遂行の新しい機能としての利用を提案するものです。「シビル・マッチ」利用によるメリットは①～⑥に示すように大きいと思われま

す。

- ①グループ各社の幅広い技術力、協力会社を含むネットワークが IT 上に構築できる。
- ②すでにリタイアした企業 OB も取り込むことが可能となる。
- ③業務の効率化・コストの削減が可能となる。
- ④ビジネスマッチングの場として利用可能となる。
- ⑤建設産業に今後不可欠なトレンドとなる。
- ⑥企業が独自にシステムを開発するには資金・労力・時間等の初期投資が必要となるがシビル・マッチをご利用いただければ即座にクラウドソーシング共同事業の立ち上げが可能となる。

現在のシビル・マッチ
(出典:シビル・マッチのホームページ)



業務委託者と受注者をつなぐシビル・マッチ！



□ 活動報告 □



NPO の財源と期待される ソーシャル・インパクト・ボンドとは

講師 和久 昭正氏(会員)

日時 2018年1月15日 15時～17時
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
講演 「ソーシャルインパクト・ボンド概論」
講師 (株)高島テクノロジーセンター
和久 昭正氏(会員)

第27回サロンは、会員の和久昭正さんに、標題についてご講演いただいた。

ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)とは、あまり聞いたことがない概念である。

その概論を、建設マネージメントに造詣の深い和久会員に紹介してもらった。

SIBの定義は、明治学院大学の原田勝弘教授によると「行政が担いきれない公的サービスや社会事業を専門性の高いNPOなどに任せ、それによって生まれた成果に対し、行政が対価を支払う仕組み。投資家が資金を出し、行政コストの削減分の一部が返済や利息の原資となる。」とのこと。また、「一般には社会貢献債への投資は、慈善活動と利益獲得の両立を狙うインパクト投資の一種と考えられている」そうだ。

講師は、よく準備された資料をもとに説明してくださったが、この仕組みは難しく、全容を理解するのに時間がかかりそうだ、と感じた。国内事例が



和久講師

ほとんどないため、具体的な想定がやりづらいことも一因かもしれない。

とはいえ、SIBを構成する考え方の一つひとつが斬新であるので、脳を刺激してやまない。

たとえば、成果主義が基本になるが、測定可能な成果指標や成果の的確な評価手法はどうするのか？

社会的インパクトを評価要素にする考え方。また、投資家は、成果があがらなかったらリターンは受け取らないが、その場合は「寄付」として社会貢献したととらえる考え方、等々。

頭のかたいシニアにとって、時代に先行するのはきついが、こうしたトレンドを少しずつ理

解することによって、今後の方向性・可能性を考えることができる、いい教材と思った。

SIBについて、シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)のインフラメンテ事業化研究会でも、NPOファイナンス研究のテーマとして取組を始めたとき。

和久講師も研究会メンバーの一員であるので、今後も最新の情報を伝えていただきたい。

NPOに携わるものとして、あらかじめ活動資金を確保できるこの制度は、おおいに期待でき、はやく導入されることを望むところである。



第27回CSNサロン参加者

CAFEO-35（バンコク大会）参加報告

15回目の参加は、新国王の下で

会員 出崎 太郎

本年11月タイで行われた CAFEO-35 に参加しました。今回はタイの首都バンコクで開催され、そのテーマは“Towards a Sufficiency Economy-Pathways to Sustainable Development”でした。

タイは昨年10月、70年間王位にあったプミポン国王が亡くなり、1年後に火葬に付されて喪が明けたばかりでした。ワチラロンコン新国王が即位していますが、タクシン元首相国外逃亡後の政治的混乱の中、軍主導の政治が継続されたままです。

前回2008年にバンコクで開催された26回大会ではその政変のあおりを受けて空港が閉鎖され、4日間足止めされて帰国できなかった思い出があります。

CAFEO-35 前に古都アユタヤを訪れ、後に映画「戦場にかける橋」の現場に足を運びました。その様子について報告します。

CAFEO とは

CAFEO(Conference of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)は、非政府系組織による東南アジア技術者の交流大会で、構成10カ国が毎年持ち回りで開催しています。

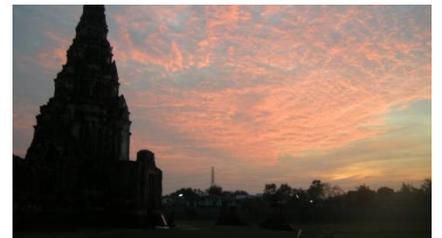
日本はオブザーバーとして参加していますが、他に常連国の台湾、香港、韓国なども参加しています。本年はオーストラリアやカナダからの参加がありませんでした。

私は日本技術士会の一員として21回大会から連続して参加しており、今会で15回目になります。参加者は、現地集合・現地解散で、自費での参加です。

バンコクは人口1,500万人超え

タイ王国(Kingdom of Thailand)は、東南アジア西側ミャンマーの東に位置し、日本の1.4倍の国土に約6,900万人が住む立憲君主制の国です。75%がタイ族で、ほとんど(94%)が仏教徒です。東南アジア諸国がヨーロッパ列強に植民地化される中で独立を守った国でもあります。通貨はB(バーツ)で1Bは約3.5円。

タイ湾に注ぐチャオプラヤー川河口に発展した首都バンコクは、都市圏人口1,500万人を超えており、東南アジアでも有数の都市です。2006年に開港したスワンナブーム国際空港は周辺国へ渡航するときのハブ空港としても機能しています。



アユタヤ



CAFEO-35



クウェー(クワイ)川鉄橋



ワット・ラチャプラナ



ワット・フラ・シー・サンベツト修復

アユタヤにどうしても泊りたくて

12日(日)9:45に成田空港を立ち、現地時間15:15(日本との時差2時間)ほぼ定刻通りにスワンナブーム空港に着き、そのままアユタヤへ向かいました。

アユタヤへは、バンコクから日本語ガイド付きの半日または1日ツアーで訪問するプログラムは多数あるのですが、どうしてもアユタヤに宿泊したくて空港からバスターミナルに向かい、ロットゥーに乗り込みました。ロットゥーは相乗りマイクロバスといったおもむきで、バンコク・アユタヤ間60B、私の場合はスーツケース持ち込みだったので120Bを要求されました。それでも500円程度なので、ツアーよりはずいぶん割安です。

アユタヤは、バンコクに王朝ができるまでの1351年から417年間王宮があった場所ですが、1767年に隣国ビルマの攻撃により破壊つくされた街です。

翌日から1日半をアユタヤの観光にあてました。周辺を河川に囲まれており、東西約4km、南北約3kmの島に歴史遺産が密集しています。そしてそれらは修復途上にあるようですが、その道は遠いように見えました。日本の援助による修復工事もありました。現地での日本語ガイドが見つからなかったため、トゥクトゥク(オート三輪車)と交渉し、4時間コース1200Bで巡りました。言いなりの料金だったのでちょっと高かったようです。

この地には14世紀ごろに始まったといわれる日本人町が形成されていて、最盛期で1,000人から1,500人とも3,000人ともいわれる日本人が居住していたとのこと。中でも山田長政は、沼津藩からシャムに御朱印船で渡って日本人町の頭領となり、武力支援をしたことで国王の信任を得て地方の長にまで上り詰めたといわれています。

日本人町はアユタヤを囲む河川の外にあり、記念館や日本庭園等はあるのですが、生活の跡は感じられませんでした。

パッポン通りで一杯できず

14日(火)の昼、ホテルをチェックアウトし、翌日からの大会に備えてバンコクへ戻りました。帰りはチャオプラヤー川を船で下る方法を探したのですが、見つからなかったため来るとき同様ロットゥーを使用しました。今度はスーツケースを膝の上ののせて60B。

CAFEO会場近くのホテルにチェックインし、会場のコンベンションセンターで参加登録の状況を下見した後街へ出てみました。向かったのはパッポン通りです。

ナイトマーケットや日本の飲食店が並んでいることで有名な地域ですが、時間が早かったためナイトマーケットは準備中であり、早々に戻りました。



チャオ・サム・プラー国立博物館



僧侶



日本人村の表示



アユチャ日本人村記念碑と筆者



ミュージアム内の展示品



パッポン通り

いよいよ公式行事開始

今回の CAFEO 公式行事は、初日の 15 日(水)に Technical Visit、16 日に各種 Working Group の活動、Opening Ceremony と Welcome Reception、17 日が Country Report と Conference Session、18 日夜に Farewell Party が企画されていました。

初日の 15 日(水)のテクニカルヴィジット。現地参加登録前にツアーに出かけるのは今回が初めてです。

2つのコースが計画されていて参加申し込み時にそのうちから一つを選ぶことになっていました。私の宿泊ホテルがバス出発地となっていたので、朝集合時に日本からの参加メンバーと初めて顔を合わせました。ヴィジット参加は3名だけ。

私たちが選んだのはエネルギー関連施設のコースで、自然エネルギー保存活用モデル建築と太陽光発電の現場。タイの誇る自然エネルギー施設の案内と説明です。

国王出席、ドレスコードはフォーマル、のほすが

16日(木)16:00からオープニングセレモニーが行われました。

このセレモニーには国王が出席するので、その練習のために1時間前の集合とドレスコードはフォーマルとの事前通知があったのですが、国王代理の出席とジーパン、サンダルでなければOKというのが実態でした。撮影は禁止されていました。

歓迎レセプションでは、顔なじみとなった参加者と再会を喜び、日本からの他の若い参加者とも初めて顔を合わせました。日本からの若い参加は総勢10名程でした。イスラム教国への配慮のためノンアルコールのパーティです。

日本は、“技術者の責任”を発表

17日(金)にCAFEO構成国によるカントリーレポートが行われ、それと同時にカンファレンスセッションが開始されました。

セッションで日本から参加の技術士、本間勝氏が“Responsibility of Engineers”をテーマにプレゼンを行いました。

ナショナルドレスと国別にステージでのパフォーマンス

18日(土)夜には恒例のさよならパーティが開かれ、クロージングセレモニーが行われて次回の開催国シンガポールに引き継がれました。

参加者は、ナショナルドレスでの参加と国別にステージでのパフォーマンスが求められます。日本チームは、歌と空手の板割りを披露しました。

さよならパーティは各国の大勢の参加者により、歌やダンスでにぎやかに終わりました。



日本からの参加者



太陽光発電の現場



構成国の美女と



本間氏のプレゼン



タイの伝統舞踊



記念撮影

「橋」には多数の欧米人観光客が

「戦場にかかる橋」は「クワイ河マーチ」でも知られる1957年のアメリカ制作映画。

第2次世界大戦下、日本軍がタイ・ビルマ国境付近のクウェー川に捕虜となった英国人兵士や現地の人々を使役して補給路確保のための鉄橋建設を行い、それを阻止するための闘いをめぐる人間模様を描いたものです。最低でも5年かかると見積もられた工事を15ヶ月で完成させたため、多くの犠牲を伴ったとのこと。

竹で造られた捕虜収容所を復元したものや、日本軍建立の慰霊碑がありました。

現存する鉄道に片道2時間ほど乗車しました。この地域には山があるということで国民のレジャーや滝の観光地となっているとのこと、沿線はこの地の特産物サトウキビ、トウモロコシ、タピオカの畑が広がっています。多数の欧米人観光客が乗っていました。

CAFEOのいま

CAFEOは今年で35回目、10か国が持ち回りで開催しており4巡目に入っています。そのためかこの会もゆりみを感じられます。

私たちが日本からオブザーバーとして参加するのは、当初は日本の若い技術者が国際交流経験の場として東南アジアの技術者と交流し人脈を作ることに貢献することが大きな目的でした。

今ではこの日本からの若い人たちが、CAFEOでの若い技術者のプログラムYAFEOのメンバーになっているので、そこは達成しつつあります。

ただ、セッションでのASEANの若い女性エンジニアの情熱的なプレゼンが目立つ反面、聴講する出席者の少なさが目立つようになってきます。



クウェー川鉄橋



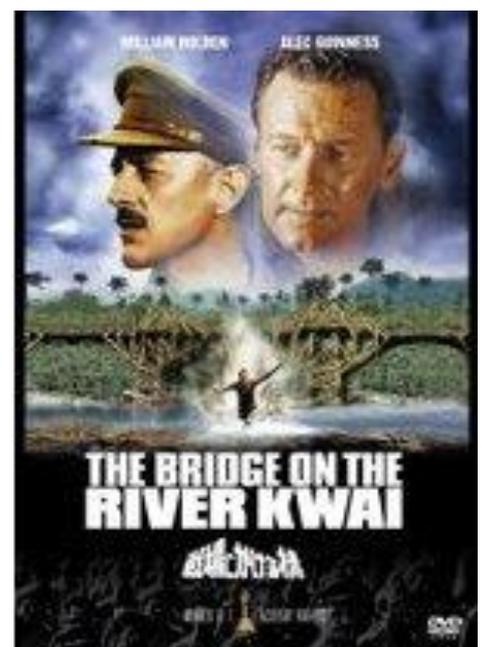
泰緬鉄道の列車



車窓に広がる農地



農地自然エネルギー活用施設の水循環説明



映画「戦場にかかる橋のポスター」

出典：戦場にかかる橋の茶一郎のレビュー・感想・評価

研究余滴

水を抜けば土は強固に！

シビルサポーター 伊藤雅夫
(前田工織株式会社)

1 水の五訓

自然の恵みの水は、我々人間が生活するうえで不可欠なものとなっている。水そのものは様々な性質を持っているが、この水の性質を人生の教訓「水の五訓」として、戦国時代の武将「黒田官兵衛」が次のように言っている。

- (1) みずから活動して、他を動かしむるは水なり。
- (2) 常に己の進路を求めて止まざるは水なり。
- (3) 障害に遭い、激しくその勢力を百倍し得るは水なり。
- (4) 自ら潔うして、他の汚濁を洗い、清濁併せ容るるは水なり。

- (5) 洋々として大洋を充たし、発しては蒸気となり雲となり雨となり、雪と変じて霰と化し、凝しては玲瓏たる鏡となりたえるも、其の性を失わざるは水なり。

水は台風や豪雨による水害、土砂流出、土石流など自然の猛威となり、人間の生活を脅かすことが多い。

建設業に携わる者にとっては水ほど厄介な物はなく、トンネル工事や基礎工事での出水事故、土工事での大雨による土砂流出事故などの災害に遭遇することが多い。

盛土工事では現場発生土を使わざる場合が多

いが、中には盛土材としては不適當な高含水比粘性土も使わざるを得ない場合もある。

ここでは、この高含水比粘性土の水を抜くための工夫を凝らした、能登空港（2003年7月開港）の盛土工事の事例を紹介する。

2 ジオコンポジット型排水材で盛土の水を抜く

能登空港では、高さ55mにもおよぶ高盛土の箇所があり、盛土材のほとんどが30%~80%の凝灰岩質系の高含水比粘性土であった。

そのため、この高含水比粘性土をそのまま使用した場合には大いに問題があった。

さらに冬季施工が不可能で急速施工となることから、技術委員会（委員長は当時の金沢大学太田教授）で色々と検討がなされた。

対策方法として種々提案されたが、結論としてはジオテキスタイル排水材を盛土内に何層か設置することになった。

従来のジオテキスタイル排水材では高盛土であ

るので目詰まりの可能性があることから、厚さ7mmのポリエチレン製の芯材を透水性不織布で巻いた、いわゆるジオコンポジット型排水材を新たに製作して使用した。

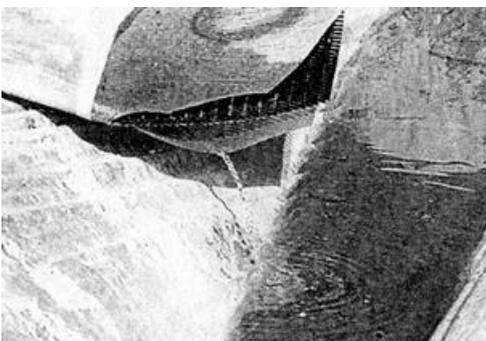


写真—1

写真—1のように、この排水材を盛土内に何層



写真2-1

写真
2-2

か敷設して施工を行ったが、盛土が高くなるにつれて排水材から写真-2のように、顔が洗えるほどの水が出てきたのには正直びっくりした。

盛土完成後の変形は、この排水効果によって盛土の強度が増加したため殆ど無かった。

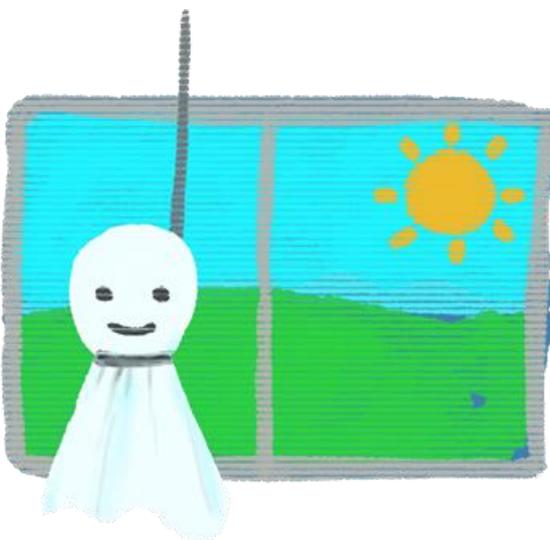
水平方向の変位が当初予想より小さかったのは、排水効果だけではないような感じがした。どうも、使用した排水材が、排水効果だけではなく盛土補強材としての機能を有していると考えられた。

開港から3年少し過ぎた2007年3月に発生した「能登半島地震」では、空港の盛土箇所は大きな変形も殆どなかった。

地震の翌日から空港は利用できたことから、盛土内に設置したジオコンポジット型排水材の効果が証明され、関係者の一人としてうれしい限りであった。

3 水にまつわる笑い話

ここで、あるロックフィルダムの工事現場で聞いた、水にまつわる笑い話を紹介します。コアの盛立工事の最盛期に、連日の雨で工事が長らく中断していました。



そこの所長は困り果てて、とうとう近くの神社に「早く雨がやみますように！」とお祈りに行ったところ、そのお陰か、翌日からは雨がぴたっと止んで工事が再開でき、所長は大喜びだったとか。

ところが、ようやくダムが完成して試験湛水始めた時には、今度は雨が全く降らずに湛水計画が大幅に遅れて、困り果てたこの所長はこの前と同じ神社に「どうか雨が降ってくれますように！」とお祈りに行ったそうです。

しかし、全然雨の降る様子もなく、毎日晴天続き。

所長は頭を抱えていたら、現場の作業員から「所長さん、同じ神様に最初は雨が止みますようにと頼んでおいて、次に雨が降りますようにと頼むなんて、そりゃ神様も怒って言うことを聞かざるがありませんよ」と言われ、「なるほど、そうでしたね。うかつでした」としきりに反省していたとのことでした。

□ トピックス □

NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)主催

市民社会を築く建設大賞 2018 の募集始まる

CNCP が、建設分野における社会的課題の解決を図る優れた事業を評価する「市民社会を築く建設大賞 2018」の募集要項が発表されました。本賞は、CNCP アワードとして 2016 年に設けられ、その第 1 回のベスト・アイデア部門最優秀賞を当 NPO が受賞しています。

その名称がわかりにくいため、今回から「市民社会を築く建設大賞」と名を改めての登場です。

制度が新しいこともあって応募が少ないそうです。みなさまのお知り合いで趣旨に沿った活動をされている方へ、ぜひ本賞をご紹介し応募をすすめてください。

詳細は、ホームページ (<http://npo-cnnp.org/>) をご参照願います。

CSN のうごき

行事・イベント	実施日	参加者
事務局定例会議	11/6、12/4、1/5	辻田、宇佐、高橋
シビル NPO 連携プラットフォーム運営会議	11/7、12/12、1/9	辻田
役員懇談会	1/15	辻田、宇佐、舌間、鈴木、和久、高橋
第 27 回 CSN サロン	1/15	参加者 10 名
活動報告季刊誌第 16 号発行	1/31	

編集後記

・辻田代表の巻頭言にあるように、このシビルサポートネットワークニュースは本号をもって役割を終え、あとを毎月配信される CNCP 通信に託すこととなる見通しである。

・長いあいだおつきあいくださった会員・シビルサポーター・事務局そして関係者のみなさまに、ここから感謝申しあげたい。ありがとうございました。

・本ニュースが、CSN の活動にどの程度貢献したかは、第三者におたずねするしかないが、わずかでも「寄与していたよ」といっていただければありがたいと思っている。

・CSN ニュースのために書いた原稿は、あらためてこの 10 年を振り返ると、かなりの量になっている。いろいろなテーマを深掘りし、知識の引き出しがたくさん増えた。

リタイア後に、自分でも納得できる知的生産活動ができたのは、この機会があったからこそ、と考えている。最後の編集を終えて、一番感謝したいのはこのことである。

(事務局：高橋 肇)